

嘆 願 書

池田市立石橋南小学校の教諭・川瀬正博さんは、2月14日に予定されていた第4回公判を待つことなく、極寒の大津刑務所で帰らぬ人になりました。

「人一倍責任感が強かった」「お人好し」「子どもが大好きで、彼はいつも子どもたちに囲まれていた」...そんな周辺の話に触れる度に、『何故、「死」に至るような結果が待っていたのか』と思い、胸が痛みます。

川瀬さんは、「能勢町での出来事」当時、クラス担任を始めとして多くの仕事を抱え、一人悩んでいたといいます。憔悴(しょうすい)しきった生気のない彼の姿を多くの人が目に見ています。

「心の痛み」を感じた家族や知人は、何度も病院で診てもらおうよう勧めていますが、忙しさを理由に頑として首を縦に振らなかったという。

自然学舎から帰ってきた夜に彼が行った「他者の車」のアンテナを抜き取った事件は、そんな状況の時に起こしました。この「窃盗(示談成立済み)」と「誘拐未遂容疑」で逮捕された彼は、過去3回の公判で、「ただ声をかけただけ」「誘拐の意図など全くなかった」「私は無罪だ」と訴え続けていました。11月には、拘置所の壁に頭を何度もぶつけ大怪我をしたことも知りました。心も体も衰弱していたことが推察できます。

家族が司法解剖を求めた結果は、肺炎を患っていたということです。

「声をかけられた女兒」には、体も心も病んでいる彼の姿が奇異に映ったことは想像できますが、懲戒免職という教育者としての「死」、そして本当の「死」に至らなければならないほどの「罰」を受けなければならなかったのでしょうか。

まだ公判が始まっていない段階で、しかも本人に釈明の機会をほとんど保証することもなく、また彼の釈明を真摯に受け止めようともせず、「逮捕」ということだけで、8月20日の早い段階での貴委員会の「懲戒免職処分」の決定は、本人はもとより、家族の心に大きな失望を生み、かつそのことが大きくマスコミに取り上げられたことと相まって「世間」にも大きな衝撃を与えました。

川瀬さん本人が亡くなった今、刑事裁判上は「何もなかった」ことになってしまいました。残ったのは「名誉を著しく傷つけられた」彼と家族。

私たちは、彼の名誉を回復するために次のことを嘆願します。

2004年8月20日付、貴委員会の「懲戒処分決定」を取り消し、川瀬正博さんの石橋南小学校・教諭としての身分回復を行うこと。

2005年4月

大阪府教育委員会
教育長 竹内 脩 様

石橋南小学校教諭・川瀬正博さんの冥福を祈り、彼の名誉回復を求める会
代 表 三宅 正子

住 所	氏 名	印